

# えん罪・仙台北陵クリニック事件 千葉刑務所 守大助さん面会記



## 2月26日(月)中島祥子さん

えん罪事件の被害者の方の面会は、初めてのことでした。千葉に住んでいながら激励にも行けず、機会があったら是非お会いしたいと思っていました。この度救援会千葉県本部の戸賀さんに声をかけて頂き、札幌の吉田さんと共に面会が実現しました。待つこと1時間近く面会室に呼ばれてガラス越しに大助さんとお会いしました。以前2通出したハガキのことをおしゃっていただき、一度もあったことのない人をよく覚えていたと思います。真っ直ぐに視線を合わせて話してくださいました。大助さんのまなざしは、働き盛りの凛とした青年で、医療に関わってきた者の優しさと意志の強さを感じました。私達の世代の息子ような年代かと思い、ご両親のことを察すると胸が痛みました。吉田さんが、私にお話しするよう仕向けてくれましたが、自己紹介程度のことしか話せませんでした。

私も争議を闘っている身で、何か激励する言葉をもっとも、いわれなき罪を被せられ、私は涙を止めることができませんでした。こんなことでどちらが励まされたのか判りません。大助さん、必ず勝利の日を迎えることを目指して、くれぐれもお体を大切にしてください。

差入れは週刊誌3冊



中島さんと吉田さん



## えん罪・仙台北陵クリニック事件とは

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行が2018年2月28日棄却される。3月5日最高裁に特別抗告を行う。

## 支援者からの年賀状869通

### 2月9日(金)ご両親



1月末から2人とも体調不良を知らせていたので予定の通り面会が出来るのか息子も心配しておりましたが、悪化もせず2月9日に面会出来ました。

受付にはインフルエンザ予防のマスクが用意されており、マスクをしたまま安否確認の後、17年前の息子は私がうらやむほど長く細いきれいな指でしたが、今は水仕事で節々に血がにじみグローブのようになっており思わず目をそらしてしまい、薬包クリームが使えないためハンドクリームのみで治りが遅いので可哀想。

2月4～5日の全国集会を報告しようとしたらいち早く茨城や高知の会から手紙で知らされており盛況を喜んでおりました。青木さんが講演で話をしたが手紙・各地からの観光地図・食べ物の本などが一番と息子も話していました。裁判は湖東記念病院の判決に注目、「真実は必ず勝つ」嶋原裁判長も勇気を持ってと真剣なまなざしで訴えておりました。

激励先〒264-8585 千葉県市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 2018年 115号

●3月は阿部弁護士が面会など。4月は月初めにメール等でお知らせします。救援会神奈川県本部に問合せを。

□面会申込み/□ 国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

E・mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp

## 2月28日(水) 仙台高裁で即時抗告を棄却

朝、守祐子さんから夢見が悪かったので千葉に行くご連絡がありその後阿部弁護士からご両親が行くからよろしく頼むと連絡が来た。千葉では鷲尾救援会会長と戸賀が14時30分頃に刑務所に行き、ご両親と会いました。事前に今井恭平さんと「決定」がでたら連絡の打合せをしていたので15時05分に「再審棄却！不当決定」の報が入りました。

早速、祐子さん、鷲尾、戸賀で大助さんに面会しました。大助さんがお母さんの顔を見ると「どうして来たの？」不思議な顔して「背広を持ってきたの？」と聞きましたが、祐子さんから「棄却」と言われると大助さんは淡々とした顔で「この四年間、高裁は何を審議していたのか、無駄な時間を」と呟いていました。

私は大助さんに「高裁の裁判官に抗議の手紙をだしてほしい、弁護団や支援する会にも今後のことで要望や意見を言ってほしい」と言いました。

刑務官の計らいもあり面会時間も少し長かったような気がしました。

翌日はご両親が改めて面会をしました。屋頃祐子さんから連絡が来て「これからもよろしくお願いいたします」と、ご両親のこの悲しみと怒りを再審無罪をあきめないと！。

千葉 戸賀輝彦

### 28日の「決定」日刑務所でのご両親



## 2月22日(木) 一羊会

面会室に大助さんが現れと開口一番「遠いところ来てくださってありがとうございます」と笑顔で迎えてくださいました。この日は、緊張しながら伝えなくてはならないことがありました。「2月28日に高裁での決定が出されます」とお母さんからの伝言でした。大助さんは淡々として「できれば早く知りたい、たとえどんな結果でも受け止めるので」「裁判長は公正な判断をしてほしい！」と話されました。17年も自由を奪われ、無実を叫び続けてこられた日々を思います。大助さんの正義が通り、再審無実が通って釈放される日を祈ります。厨房の仕事にも少し慣れた様子でしたが手のひび割れが痛そうでした。今度会うときは喜びの握手が出来るますようにと願いつつ、帰路につきました。小林幸子さん 差入れは現金と本。

売店でハンドクリームとシャワーシート

## 2月26日(月) 札幌の会

今回は、東京で自らの争議解決をめざし裁判を闘っている中島さんと千葉の戸賀さんと3人で会うことになり、三度目の面会と言うこともあって、落ち着いて大助さんに面会出来ました。私からは仙台での集会のこと、救援会白石・厚別支部大会の様様についてと再審を求める署名を一年間で1000筆を集めたとの経験を伝えました。二日後に仙台高裁の「決定」の出るタイミングで大助さんの心境を少し心配していましたが、実に淡々と「決定」の見通しについて冷静な判断をされていました。仕事の方は離れてきたと言っていました。1000人分の食材の下処理という仕事を想像するだけで毎日が苦勞している様子が思いやられました。以前より面会時間が10分ほど長くなり、中島さんや戸賀さんもそれぞれの思いを大助さんに伝え、大助さんの要望やい県などを聴きました。最後に再審決定が出ることを願い面会室を退出しました。(結果は、不当決定になり怒り心頭！こんな裁判を許すことは出来ません) 差入れは札幌のタウン誌 吉田一夫さん

## 2月22日(木) 一羊会

朝からみぞれ混じりの冷たい雨が煙る中、大助さんとの面会に出かけました。売店で戸賀さんと合流し、面会手続きを手伝って頂けてありがたかったです。今回は小林幸子さん、中野さん、と三人でお尋ねしました。靴づくりから厨房へと仕事が変わり、何十キロの野菜の下拵えでの仕事は大変あ様子で。

周囲の人達への配慮もしっかりとしながら、日々の生活を営まれ目が輝いていました。会う度毎に無実を確信します。どうぞ神様大助さんの願いと祈りをくみ上げてください。大助さんの晴れて出られる日が一日も早く来ますようにお祈り続けます。

大森明彦さん

一羊会の小林さんに声をかけて頂き何年ぶりかで大助さんと面会をしました。28日に仙台高裁「決定」でる前でしたが淡々としていました。

両手を見せてくれたのですが、冷水を使うので荒れて白くふやけてアカギレもあり痛そうでした。私達は寒さを心配したのですが夏の暑さの方が苦手です。今は毛布一枚に掛け布団で大丈夫だそうです。



タイマーが鳴り部屋を出て行く姿を見て早くご両親に帰れるようにと強く願いました。

中野克子さん  
一羊会の皆さん